

横浜災害ボランティアネットワーク会議

平成 30 年度 第 8 回運営委員会について報告します。

日 時	平成 31 年 2 月 15 日(木) 18:30~20:30
会 場	横浜市健康福祉総合センター 8 階 ボランティアコーナー
参加者	鶴見区災害ボランティアネットワーク：河西（代表） ガールスカウト横浜市連絡協議会：外山(副代表) ボーイスカウト横浜市連合会：中上 泉区災害ボランティア連絡会：乾（副代表） 南区災害救援ボランティアネットワーク：高松 港南区災害ボランティアネットワーク：井出 保土ヶ谷災害ボランティアネットワーク：川名 磯子区災害ボランティアネットワーク：和田 港北区災害ボランティア連絡会：宇田川 瀬谷区災害ボランティアネットワーク：篠 認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク：伊藤 オブザーバー：市民活動支援センター 薄井 事務局：横浜市ボランティアセンター 若林・田村・別田

【議題】

1 支援者向けコーディネートスキルアップ研修会振り返り

事務局より資料 1 - 1、および 1 - 2 に基づいて説明。

アンケート結果としても全体的に満足度高かった。「お付きあい力」というキーワードがあったが、横浜は大都市であり外国人も多いため、日頃から NPO や企業、他機関との日常からの繋がり大切であるという話や、ICT の活用についてお話があったのが印象的だった。

(意見)

- ・アンケートの回収率が 6 割くらいだったため、記入していただく時間がもう少しあれば良かったか。
- ・「災害ボランティアセンターの運営を知らなかった」、という率直な意見もあった。災害ボランティアセンター運営に特化した、実力をつけていくような研修をしていってもよいか。
- ・3月に講師に来ていただくピースボードの話もあわせて聞くと、今回の講義内容の理解が深まるか。

2 市・区災害ボランティアセンター設置訓練について

事務局より資料 2 に基づいて説明。

講師調整に必要な項目のものをお渡しし、委員にご調整いただけたらと思っている。今回配布の資料は過去使用のもの。当日資料ではない。

(意見)

- ・市災ボラ支援センターの役割は、いわゆる災ボラセンターの役割とは違うが、区災ボラセンターとどのような連携ができるか考えても良いのでは。外部団体は特定の区にくることは考えにくく、「横浜」としてくるため、市と区の連携がより求められる。
- ・横浜は広域なので、他の被災地のようにサテライトが立ち上がることが想定されるが、前回のアンケートからの意見も踏まえて、センターとサテライトがどのように関わったのか、災ボラセンターの運営支援、入り方、繋がり方の部分を聞けたらよいか。
- ・災ボラセンター運営においては実践のある団体と連携していかないとできない。ピースボードは現場に入ってくれる存在。行政との関わり、というよりは、センターとの連携部分を聞けたら良いとおもう。
- ・区災ボラセンターによっても考え方が異なるので、センター側の受け入れが可能かどうか。
- ・団体側が、受け入れてくれない社協への印象や、受け入れてくれた社協への印象をどのようにもっているか、そのうえで外部から団体を受け入れるにあたってのアドバイスが聞けたら。センターへ運営支援に入った場合と活動団体として入った場合の様子や、支援に入って難しかったところなども聞きたい。動きのなかで困ったことを聞くと、どのように対応したらよいか見えてくる。
- ・ピースボードは大規模災害への支援に入ってきたので、大規模災害を想定し、自分たちの区でどこまで対応ができるのか考えてもらうのもよいと思う。
- ・横浜は人口密度も高いなかでの災ボラセンター開設となる。講師もそのようなところに支援に入った実践があるかどうか。
- ・サテライトが必要だということを前提しておかないと、準備ができない。サテライト運営をするときにはどういう準備が必要だったのか、人員などを話してもらってもよいか。
- ・ピースボードのような大きな団体の受け皿が市災ボラ支援センターなのか、区災ボラセンターなのか、切り分けや連携、見極めを区としては知りたい。
- ・災ボラメンバーも被災者になるので、すぐにセンターに駆けつけられず、外部団体が必要という声も区災ボラのなかであがっている。外部団体がきたときに、区に直接くるのか、市を通じてくるのかわからない。外部団体が入ったときの受け入れができるような体制づくりが必要、という意見もあった。
- ・ピースボードに現場には行って、実際に何をしたのかを知りたい。誰とどうして、どうなったのか、という具体停な話がとても勉強になる、災害時は市災ボラ支援センターが司令塔になるべき。外部団体が入る流れを支援センターがつくらなければならない。外部団体が現場の運営と、司令塔への運営支援に入るのとでは関わりが違ってくる。
- ・講師は実際に当日誰がくるかわからないので、そのかたの経験のなかで話をしてもらえたら。
- ・グループディスカッションで副題をつけた方がよい。
- ・ワークシートがあるとよい。
- ・被災者対応ではなく、センター運営との連携ということを講師に伝えておいたほうがブレない。
- ・副題：さまざまな外部団体の力を災ボラセンターにどう活かすか。

(決定事項)

- ・総合司会：篠
- ・ブルーレイプレイヤーの準備：宇田川
- ・講師との事前調整：宇田川
- ・グループディスカッションの進行（趣旨説明、ルール説明等）：和田、事務局
- ・受付：他委員
- ・委員集合時間：12:00

3 ブロック助成金について

事務局より資料3に基づいて説明。

結果：助成金支出について承認された。

4 NEWS LETTER 第63号について

次第に記載のとおり、掲載内容の確認をした。

5 次年度に向けての事業計画について

事務局より資料4に基づいて説明。

次年度から新たな3か年基本方針となる。事業計画象に記載されている内容について、これまでの出た意見や課題を書き出した。この内容に限らなくてよいので、ご意見等をいただきたい。2月末までにご意見をいただき、次回運営委員会で全体確認をしたい。

(意見)

- ・広報紙作成にあたり、市の補助金はどれくらいの割合なのか？作成にあたっては、編集委員会が合ってもよいのでは。
- 上限はあるが、発行にかかる経費の半額を補助。広報紙は発行形態を変えるなどで検討できれば。

【報告事項】

1 各委員・ブロック別連絡会報告

港南区災害ボランティアネットワーク

2月23日に災害ボランティアセンターシミュレーションを実施予定。地域防災拠点からの参加人数が未定だが、拠点とボランティアセンターとの連携を説明予定。

港北区災害ボランティア連絡会

2月17日に家庭防災員にも関わってもらい、災害食について地域防災拠点との絡みも含め、勉強会をする。被災地の物品販売支援で、作業所と繋がりがあるところがあれば知りたい。災ボラにおいては、各区の経験交流の場がもう少しあるとよいと感じる。自区で出来ていないことが他区で出来ていたりするため、各区の事業計画などを共有してもよいのでは。

Dブロック別連絡会

1月29日に支援Pの講師による研修会が青葉区幹事で開催された。内容は災ボラセンターでの実践報告が多かったが、支援Pの役割についてもお話しいただいた。来年度また講師で呼んでよいと感じた。

瀬谷区災害ボランティアネットワーク

1月26日に災害ボランティアセンターシミュレーション実施。ここ3年、中学生高校生を中心に参加していただいております。日常的に活動できる方を対象としている。体験型の内容となっているが、ニーズの聞き取り訓練にも4～5名ほど社協職員の参加もあった。区からの開設要請の段階からシミュレーションしており、3者連携ができています。

保土ヶ谷区災害ボランティアネットワーク

2月2日災害ボランティアセンターシミュレーションを実施予定だったが、諸事情により中止となった。

磯子区災害ボランティアネットワーク

現在災ボラセンター設置場所が磯子センターとなっているが、津波被災の恐れがあるため、区と協議し、公会堂に変更で検討されている。

認定NPO法人かながわ311ネットワーク

2月2日に西日本豪雨災害支援報告会をし、広域連携の大切さを共有した。今年度はマンションの防災に注力してきた。来週23日年1度開催している防災教育フォーラムがある。

ガールスカウト横浜市連絡協議会

70周年の準備をしており、災害関連は特になし。

泉区災害ボランティア連絡会

ひなたやま支援学校の訓練の手伝いをした。泉区は災ボラメンバーが少なく、災害ボランティアセンターシミュレーションで実施する内容の把握が出来ていないので、改めて災害ボランティアセンターについて勉強をしよう、としている。

Cブロック別連絡会

3月を開催予定にしていたが、4、5月に変更となりそう。

ボーイスカウト横浜市連合会

災ボラの来年度の事業計画では、何かできないか提案したい。大庭のイオンにて防災フェアをする。

鶴見区災害ボランティアネットワーク

総社市に行き、災害の取組の話を伺いに行った。(別紙資料あり) 総社市は高校生も多く支援に入っており、SNS で呼びかけたところ、4 日間で 1,744 人のボランティアの参加があった。物資の仕分けもガレージで中学生高校生がしており、その場で欲しい人に提供もされていた。22 日に鶴見公会堂で西日本豪雨災害の報告会を予定。

2 県災ボラから

特になし

3 事務局より

①震災対策技術展出展

次第に記載のとおり、内容を報告。

(意見)

パネル展示のときに、各区の活動でかざれるものがあればだして良いのでは。市の研修会などでも掲示できる。

②会員の入退会について

4 月から市民セクターよこはまが本会議に入会。桐蔭学園横浜大学ボランティア会から、現在会が存在しない、ということで退会を希望された。

③その他

- ・ 2月 17 日東日本大震災からの復興におけるボランティアを考える チラシ配付
- ・ 2月 27 日第 2 回中区防災 & 災害ボランティア講演会 チラシ配付

- ・ 3月 2 日サントクフェスティバル チラシ配付
- ・ 3月 5 日支援 P・JVOAD 合同報告会「西日本豪雨災害支援活動報告会」チラシ配付

<次回 3 月 1 8 日 (月) 横浜市健康福祉総合センター 8 階 大会議室 8 F >